

○今宿村

里長 久兵衛

○仙北郡の同宿村と云はれりし此所を驛跡と云て其筋や跡変りしと云ふ所なり之を沼鍬ノ村と云白旗ノ稲荷の神を祀る邊に古に田舎の字ありと云る今宿の所の名ありと云ふ所なり此村の家々の後流る小河を背に川と云ふ其末の川渠一筋を流る地は沼鍬の村ありと云ふ所なり此村の古馬場を隔て南に造り山ありと云ふ所なり都邑記に云ふ家数三十八軒之大澤へ一里三十分淺舞へ一里三十分沼鍬へ一里三十分南間川へ一里三十分枝原向御村家数寛永九年始に西雄勝ノ郡大澤村ノ大凡後世以能木澤より姫女が坂と云ふ作野原村寛永十三年始に元禄二年と見えたり此今宿の所驛家軒を連ね

月毎三九の日の市ありこの市は郡邊に仙北郡の今宿の
部より仙北の今宿よりと肆群集居するなりと云ふ
鹿の今宿より三日九日十三日十九日二十三日二十九日かく月次
市たちてわちて其日と賑ひりまゝ此里ハ驛跡にて上二十日の
沼館の驛より驛馬を生し下モ十日ハ今宿ありその役場
をいふと元禄十年丁丑の年より月々二十一日より月
盡まで沼館の助駄馬せし事なり其世は里長長兵衛
役たる時より今とそむ式とありてかゝる月々十日の驛跡
此紋あり事よりこそあはれ所と上中下かけちめあり此北
の東の方の家の門より大より重縁柳一本生りその木
幣より添へ垣ひのふしなり此柳を肆群奉り此柳
はさしなり事よりなくといふ事あるんそのいふは陸奥

國駒形山の峰より流来る水よとてく谷水も流れ
添ひてその末此より出たりといひしは古より廣く
大河を佐久の瀬とて荒瀬なりその所のまゝ生ひ立ち大
柳ありその往復ふ舟より此より舟を繋ぎあはれ船し息
いひりせし物語あり此柳は靈樹とて幾度かいひたり
く僵れりある其の佐久の瀬の大河に地部より中流に
よがれて流る後今ハ田畠変り野と里と化りて人柳
家より此柳は里中の人の軒端より生え居りて
此柳は焼亡やうなり事よりいひみくびと及ぶやうなり此木
葉はいつたびに老く今より大木の柳あり此柳の門の
ありし三浦六右衛門とて此屋よりあり屋戸と
いふやうなり正月の九日ハ初市なり此柳の市神子

神酒すゑぬさとし物奉りて里人市人うぢ群れまうづ
るこゝろなれはとまらぬの市に鹹と鹹とを賣り初め
買ひ始め肆家のついでに館錫と小児の土産と塩と
五味の長ちねば壽齡を延つ良薬なりまゝ塩制事
ハ男の産業漸くも事ハ女の生業なりさうなれば館と塩
ハ親子妹背月の中かむつひなる事を今日の市路の家裏
ルそ人をも身をも祝ふあしをむかし市姫の神の瑞籬の
いのちねばあさなひ物々あけをつむぐんと誦れて市神を
禮ぬらづさうり奉りたる新田開泰記といふ田文子大巧三
竹助流の西邊よりや難木生いぬれりちとつり田子
内り小安り八口内川よりさあめそハ天英公六郷にお
ましせしころより今とそ水いさひさ入いさちあちの

田子^{ウルホ} 國田^{ウルホ} 澤下^{ウルホ} まゝ北里と西の方に向歸るる曲木
川岩淵川叶と川がとふお名と枝り少流を名に名と
まや今ハ田^{タトコ}の石の残なり下り市よりおまおあし町裡に
存り小野家の武士などの末流や家苗をかくて江戸塚
弥九郎など江戸塚氏いと多し南田といふ枝原のといふ
今ハ家たし寛保延享の頃までハ家居ありしとて南田の
生れしといふ間々所といふ人ハ今ハ歳を文政五年壬
午のとし死ねりといふ寛保の生れしといふ人今ハ家
の二三戸見えたるハ此ころ田家造りたり後ハ月榮えて
村とやあふんし作野^{カサ}村今ハ家あり寛文十年の
ころあつた一戸あつて江戸塚弥惣といふ人の住るまよ
し田記に見えたり

高花と云ふあり北村ハ今宿の南の郷をいふなり高花
本と高岬と云ふは假字ありや大木林の釵鼻山岬
なるを花と作り家と今十四戸あり南に石持川と云ふ所
流れありそのあり雄勝郡の安河原と云ふ所なり
大木川ありし今と云ふは鉾水流れぬ板橋あり
此水元ハ木下樽見ぬ東里などとの村と云ふは今宿下
所ありは鉾水ハ八卦と云ふ所なり即物川に入る黒石
沢と云ふ東西ハ三百間斗之遙山深井今宿の北に直即初
鳥うちと云ふ六郡の内十一ヶ処あり其鳥居のついで
山北三郡ハ北里原の北に此事深井村やなりは
らのくぐりもなほなり同じに在りたりやその村に
在るハ多クハ入相の地なり

○井筒一菴来由

なりしかし北里ハ井筒一菴といふよりしはと云ふ本
ついでともありて名保田より来るを櫻井喜多郎と
いふつれ薩人と見んておの身なりし事と云ふは薩
語に云ふも二王ありて武家のくせし人あり其の行ハ
すゝぬ誰に云ふや武術にたまりしなり

ぬ人きやあんと云ふなり

公きこめと云ふ道子人といふなりといふ世に試
させ給ひし及ぶものありしなりは奥より
業に見るなりと櫻井をいへ牛島より来りて鉾大
筒石火箭ありとおぼし試しに寛文五のころ
ありといふなりは後ハ櫻井ハ所領ハ給ひしなり

うち聞ん給ふを櫻井喜々岡此事おろく辞しん櫻井
やがて醫師よりて井筒一菴といひて今宿を住居
かゝ菴ニナセのまゝ中風をふ病おこりてありしう
ちあえりおるより歩み疾しこといへりぬ今宿を
在る三十番社の旧跡にこゝろ齋食してあくる日の
方らちよりありしつねのまゝあるが北復奏天子皇都
おもひてよきなり鬼子母神千羅刹女の神形ある
三社の御神の神像ありておて三十番社の社に
お宿のちと七宗の名に二王の石像力士の石形
で心のまゝありしとあるし井筒一菴よりし
道よりちとせしより乃ち病の病ちハナす
りといふ三十番社の社に延寶八年御陰に二十五

四面を給ひぬ杉柳をうゑてとしりや病ぬ元禄八
年の秋ある徳雲院殿左近衛權少將
義處公を申奉るの御渡野のま
この三十番社のみやとち入る給ひて二王をつくり
ち見給ひしより正洞院を觀音堂御建立の折あるが
此二王の石像を奉りて給ひしとあるをち元禄九年八月
のころ乾徳院殿四品修理大夫義苗公を
申奉る義處公を申奉る御渡あて三十番社
の社におみせおありはしとあるなりてち尊し此社の後の大
おと身隠しのおもひいふといふとあるなり人々を恐る
おとそのを傳へて此社にたつたをちつがむおと
久保田におもしたる黒槍といふもの三本あるといふ
是をちつたりとち院のたつたをち傳ふらるる
ちつたりハ正徳のあり久保田ある醫者山蓮住寺

の先法師の能ありて語りしところ井筒一麓が末あり
くし梨明和の末のよしある澤井村よりつりてこ
こそのありのいをつとの井筒同喜とて今たな有今
新村堤向と杜力士山番部並の石三王より享元甲子
三月十五日より力士の石像と元禄五甲子三月八日
より南無妙法蓮華經碑と天和二壬戌正月四日と
ありて人々の名を多くする今宿肝煎小澤久岩玄長
居士内方花葉妙心禪定庵とありたりとしり敗れた
るを文化四年丁卯四月十五日再建せりといふ小澤久兵
衛あり四五人ありぬ主と

○小澤莊八より家その上祖所伝の小澤と云ふはしありて
姓を小澤といふ古より澤といふありし小野寺の時世より

り里長役を十三代つとの明治六年辛子のかつとも里長
を止む後より莊八といふありぬありて梅津家より所伝
と作せ給ふその勲功を多く給いて恐きことのより
する作よりたふれぬ常えむつる田代正保四年の頃
八全より成りてあり寛文十一年のころ梅津家より行徳免
とて二十石果なりといふ給うて今も老なり其末莊八と
今もななりといふ小澤氏孫より和太郎文之助ありと
みあり小澤なりといふ梅津家の給ふ小澤祐吉といふ家
りありぬとて多しる屋戸といふ

○小坂久保より福人あり寛文延寶の世に人々や加賀の
國より来るよりを傳ふ沼鍬の藏光院と小坂久保の墓
碑あり江月道光居士天和二壬戌二年二月初三日より

たりその末の末を小坂角と云ふ所あり小西久と云ふ所あり家
あり寶曆のころとみ學えたる屋にありあり近世文化
八年辛未八月の始あり御渡野のやう泰我公
從四位下侍從在京太夫
義和公の御事と申奉る
畫の中御伶い宅今里長と云ふ
○由利氏あり元祖と撰津國と云ふ所ありと藤原喜
子嗣喜行正徳二年庭十月十五日薨九十一と故り繪佛師
の画は阿彌陀佛此裡より方便法身尊形本願寺釋教
如花押願主了誓と云ふ所ありと原山軍功と云ふ所ありと
不教如上人と東本願寺の元祖と了誓と云ふ所ありと藤原喜行が
法号ありありと本願寺八代目の蓮如上人自筆の六字の
名号ありと家藏せり天樹院殿義和公を
北通の時と云ふ家
元足田氏の中宿と云ふ所ありと屋戸と云ふ所ありと上祖喜行と云ふ所ありと

六代由利孫助あり

田畠ノ字地

作の瀬 上鶴田 下鶴田 石持 出向 秋田ノ郡
南北内二井田 齋村の泰衡塚の有り処をい出向といふ
千所田 地名に 棒突 戸瀬堂 上宿 南田

神社

○神明宮社地東西間南北計杉雜木生ハ交リ立
本社中酉と向たり祭月十六日此神社古と藏傳寺カ
古と隣堂瀬戸と云ふ地といふありし御神ありあり

ろ上ノ所あるいむりしの社今と和寿院の在る地ニ遷し
天明元年辛丑六月十六日猶い依衣とて造山村、住僧道
通よりつゝたる、今のみやとら之末社愛深明王ノ社羽
黒ノ社祭日七月七日此羽黒ノ社より佐久野瀬迄、
地の人市といふ事あり此社より假り遷し奉る、末社
あらざる、其跡藏傳寺とて、羽黒をともて四間五
間の陰に河此神の古跡に

○神明ノ神鏡と裡より元祿のとの名あり太神宮と
いふ御書と平安俊顯とあり氏ハ中井と

○豆明神ノ社とて此の所の御神と大同の名あり
つぎまろとて神社といふやゑよりさゝかあり神明
宮のみやとらより青柴垣を隔て猶い依衣の首場

上より座バヤミの依衣を豆が依衣といふやがて神の市
とあり、祭日九月九日此祭夜ハ八日の夜隔りて
とら火を焚て賑ひ

○今宿の五所

○市中の柳このゆゑより、前よりつゝのちあり
今と市姫の社と斎といふより此柳をかんだの柳と
いふ事、前より部ぬおん世のふいあき柳といふ
市神といふ斎り奉るもの

○龍針り水此木大なる血柏とて石宮山藏傳寺の
庭に生たり此寺住僧文海和尚雨のとき此木より
持水水をそゞる雲起りて此木よりつゞけり、歌の
りて雨よりいふなり、その寺のてある精舎あり

たり

○身隠の松此松大なる木にて神力山あり元祿のころ
御わたり野ありしと徳雲院殿義處なるや此番此
よりせ給ひしと大なる赤松すいふ事をこそと身隠
の松とふべきよし作あると傳へて人みな老らひしが
其松枯れり此事公に申しふ馬槍といふものを三
本給ふを神力山よりとてあるあり

○横越寒水杉の樹の本より湧き出るよこしとふと
いふ事いふこゝみづをどろろ人ありしとよね水と
代々のお目むしたる野に生まれ給ふともいひし此清
水も御をしもの調し屏といふ
○首塚といふへ泥柵のたかひ力ともいふや千頭チカウヘといふ

たるを埋きたる地トコロやまゝ神をどよりある神
あせしところやまゝ山堺の古馬場のこゑに在りてそ
の上より正一位稲荷神あり此事前にもいひ給ふ
あるらむ九月八日の斎夜といふものぬき里の寺と
ル家毎々草をむひるとあるやうちむひて降フスミはこ
る火を小夜にむきと焚きたつといふやまゝあるや
るまゝの今にちとく残るはまゝあるやの教あり
といふし跡とてあるや横腰清水の池を問ふ
山といふちいふ山に石持りあるといふ一の壙ツツミや
此麻マ幣ハテ山ヤマの羽黒力を奉るといふ奉るむと欲と
和寿院のこゑにありしあれとあるとあれはこゑのよ
めと神といふやの世奉る事といふ

藏傳寺

石雲山藏傳寺と曹洞派より同郡増田の村に増田山福満寺と本寺より満福寺と三世正論和尚を藏傳寺の鼻祖と勸請した

○開山梅公羽正論和尚文龜元年辛酉六月十七日遷化二世天竺梵清和尚

遷化三世喜菴門泰和尚遷化四世般若室泉茂和尚

遷化五世扶山蟠州和尚元禄九年丙子六月十日入寂六世骨山嚴蟠

隨和尚延享二年乙丑二月十三日入寂七世得翁祥隨和尚延享三年丙寅八月二十一日入寂

世大印文海和尚延享三年丙寅九月二十三日遷化九世牧田旭禪和尚安永五年丙申十月十日入寂

十世真海就眉和尚明和三年丙戌四月六日遷化十一世古澤檇燈和尚天明三年壬寅三月八日遷化

二世祖竹虎祥和尚天明元年辛丑七月川連村祥應寺より

晋山天明六年丙午八月神宮村寶藏寺へ移轉文化九年壬午七月十八日入寂十

三世大圓觀明和尚天明六年丙午八月今泉村、永泉寺より晋

山天明八年戊申四月増田村滿福寺へ移轉于今存余十世快屋

祖弟和尚文化十三年丙子六月七日遷化十五世透翁良閑和尚駒場村、就藏院

より晋山文化六年六月丙辰存余十六世即宗又順衣あり大轉

洪鐘正徳五年乙未八月二十七日建之尚時七世得翁

禪隨和尚代と彫りたり

石雲山鎮守社

秋葉三尺坊、社寶曆六年丙子六月二十四日造営

白山神社明和七年庚寅正月造営七世得翁代

石雲山三可談

藏傳寺より多し方なきありしと云ふも、祠祠寺の古記録交割什物過去帳よりいふまでなり

灰とありぬりし其時おろし張らし洪鐘の
土石も赤くも作てそにおお掘れどし其色尽る
るやあしうりまた此等の八世あつた文海は
勝部是田村の能持寺とも智行をあらうし高師あ
りし文海は其の僧の弟ありてあつた文海はつて
訖を招びつたおの街あつた僧侶とつて村氏のすま
雨を度しぬるを憂痛ひあをせば文海手折ひ口そ
そいで手は水瓶を持て口は清雨陀羅尼を呪ふ雲
しむた水瓶の水をさしやる血柏は激けバ風吹雲起
りてあつたおの祈雨の志ありしをいへせ水無月
の照りたるく空より雨乞せしと寒氣のちかき身を
こよあつて此方にお見えを小僧といふあつてり人等

みお眼をうたあつたおのぬづつてあつた小法師
いさちうとあつたおのいとおのく左右の子を面あつ
目いとおつて是を見れば師は血柏のいみおすはういちをた
るの本よりて水瓶の水を吐きし血常は空よりさし
鳴りひめりて升訖なりかつて雨は椽の水を激り如く
三日あつた雲を千田の田面水みちあつた民人ハ田沃
を見せたり其見し小僧あつたおのそのときおの恐
の毛いさちしあつたおの付たおのつたおのつた
扶桑略記に祈雨訖穴より其血柏の赤木の空を
より訖やすみたる人あつたおの文海の志ちのいさち
さちやいさち奇りいさちあつたこ

○宗念寺

○高橋山宗念寺（向本尊五百餘）御裡書ハ本願寺
 十三世宣如上人（万治元年開基釋宗忠之宗忠と小野寺孫五郎輝道家臣）高橋伊豫ノ男伯耆宗忠主君
 落城ノ後今宿ノ住ニ出家ノ一字建立シ明暦元年乙
 未十月五日入寂二世宗念大坂仁右衛門出家ノ二世續
 々（寛文十一年八月十一日入寂）三世玄心（享保十八年五月）四世儀門（寛延四年己未八月十八日入寂）五世儀
 圓（寶曆八年未六月十八日入寂）六世儀秀安永四年乙未三月焼失九月本堂再
 建寛政年中庫裡再建七世儀了野嵐町ノ善行寺
 ノ三男（文政四年己五月三日入寂）八世儀仙當代後住之

○和壽院修驗（上野）

○無量山舜光寺和壽院開山重學坊心際（貞享元年十二月十一日入寂）二世日登坊重光（元禄十年十二月二日入寂）三世泉光坊（宝永二年）

乙亥十月十四日寂 四世宮本坊元寶（享保十六年辛亥十二月十七日化）五世常學院宥良（元文三年戊午七月五日寂）六世吉元坊宥本（延享五年辰正月五日寂）七世當住光僧和壽院宥圓後住成光坊貞良神明宮羽黒社首塚稻荷ノ社ノ別當之

- 家員 百十七戸
- 人員 五百五十七人
- 馬數 三十二足

○矢神村 里長 圓兵衛

○此矢神（イヤハタ）ノ八幡（オホミカミ）の御神（イヅキミ）を斎（イヅキミ）ルハ世々此御神を弓矢神（イヅキミ）と云ふを以て弓矢ノ事を言フ

省^{ハグキ}昭傳ハ唱へて矢津ト事とし恐ルルをまゝ一邑^{カレコ}存ト
成^{ハレシ}々々ある所ヨリ多々享保日記ニ云リ沼鍬ノ支那^シノ処
御改別村ニ被成置矣延寶五年中一正右衛門ト申者
開^{ヒラキ}発立^{ハツ}ト由シ家負二十五軒ト見エタリ老^キ正右衛門ト
二井山邑の佐々木下総ガ分家佐々木理左衛門ガ末家
カモその佐々木正右衛門ガ隠^{カク}居^ユカ名を道運ト云ハニ此
矢津村カ舊家ガ其後^{スエ}今ケル正右衛門トモある家ニ
十四戸あり舊家四戸ヨリモト佐々木正右衛門鍬ノ
善左衛門金子市左衛門佐々木九右衛門ノイモノ沼
鍬ノ別村^{ワケムラ}ガる寶永五年享保三年カ田^タ字^ジ帳^{チャウ}ヨリ

八幡宮南向社地二十九間ニ
二十六間半良方ウレトア村中の山のあふり

良方

村中の山のあふり

鎮座秋八月十五日村民祭せり斎主佐々木九右衛門といりそり此神社と本トさやある神祠を今の神山の麓におゆしまたこゝろ安倍統帥代とさむきたるを討亡と源頼義義家父子軍をいへてとこりといひの神を祈願し此沼館の方神をさうて此頃事ありむけて世の中太平ありむともハ十五間四間ハ神殿を造営あたふ奉ふいとあやびぬがつきてむらひせ給へハ將軍の心のおにうつゑたがてその復祭を誓ひ約の如き大なる社を再興て箭前神八幡宮とさむし奉りて其世人々朝夕うち群れ詣て朝暮のの宮奴より神官並にやとりのとことの声絶や神鈴の音のひきりきりなりしハ七十一代の帝後三條院の御代

○狼沢と道祖神峠 二井山天祥のフモト 山脚より七八丁東

矢神より七八丁南の方の家八丁あり村

○如意輪觀世音ノ社 祭日三月十七日 南主 下澤小倉門

○山神ノ社 祭日三月十五日 南主 酒井清吉

○神明宮 祭日四月十六日 南主 佐木喜助

○稻荷社 山ノ神座ス澤口ノ社ニ 南主 同家

○矢神本郷田地ノ字

○堂の下 笹巻 狼沢口 葎花 堤の下 廣面

○道祖神ノ沢入りすみ寶永五年ノ田地帳ニ下澤河原

上下ノ河原

○矢神邑 享保三乙卯年より沼館村と別村となり山ノ字

○堂澤 下ノ山林 亦在御門山林 水上山林 薬師長

根山林 鶴ヶ沢山 廣面山林 大堤山林 新田沢

山林 善左衛門田ノ山林 中森山林 南ノ澤山林

向ノ沢山林 段長根山林 ざら沢山林 家ノ後ノ山林

前山林 鳥屋長根ノ山林 南沢草山林 羊内沢山林

畑ノ上ノ山林 堰ノ上ノ山林 七曲ノ沢ノ山林 はげノ後

ノ山林 児ヶ林ノ山林 兵部ヶ沢 草薙山ノ今宿下川

系沼館入舎ノ処

○松茸山五箇處

○大堤上ノ山林 村ヨリ 圖兵衛山主ノ南ヶ沢山 西ノ方 山主

九右衛門 廣面山 西ノ方 山主 勘重郎 中森山 中ノ方 山

主 善左衛門 家ノ後ノ山 狼沢遠ノ山 主 清吉

右五ヶ山と名おふ山と云ふ仙妙心鑑道ノ産也

やまの如連山に赤松の大きな松茸
 大なる松茸を少くもとる者松山といふ人多く見ゆ
 やらちよといふ去し文化十二年乙亥の秋城主
 天壽院公（御事をす）御渡野のとれ石屋の松茸數十
 莖土あがり堀りて献（イラツリ）或は捕りて奉りし北五ヶ山の
 松茸ありといふ

矢神邑の入口南の方路傍に子安観音辻地蔵をとい
 石佛と（マヒ）雅（マヒ）庚申より己巳の石碑（エ）立る

〇家員枝郷共三十二戸 〇人数百六十五人
 〇馬数二十五足

甲 矢神村乙 枝郷狼沢
 丁 矢の神峠丙 二井山
 戊 矢神八幡山



南

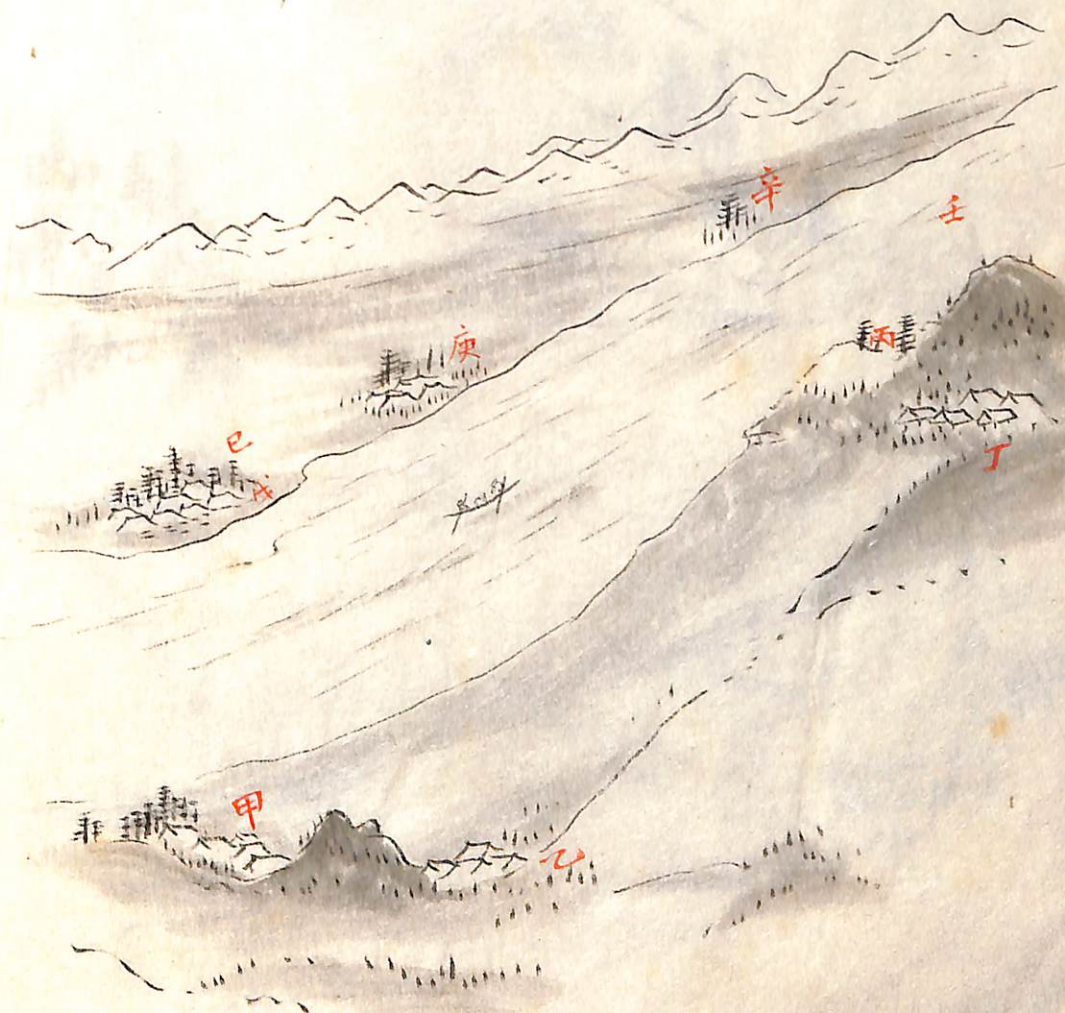


甲 八幡宮
丙 矢野邑
丁 勢至堂
戊 大沼跡
己 大沼跡
旧社地跡



○矢神の渡
甲 矢神邑乙狼沢丙今宿邑ノ赤館
丁 今宿ノ歸邑戊下向奈己足館
庚 中島ノ奉今宿村壬御膳川

大森の枝村本所といふ村あり其本所ハ本
 國府といつても其處の文字誤る傳ふ
 るやそのありはいと廣うなりまこと
 といつて
 あゝまゝに今霜村の枝村を所といつて
 するあり今も御膳よりよこされて流し
 かね向の所の名あり並そと所といふそ
 いへはつらつらといふ國府のたまふなり傳
 名に國府在平鹿郡と見えたり本所
 ハ本ト國府あり所といふ今カ國府といふ
 いへよりちねなるまで



里長

善
治

北邑と寛文十一年を始めたりある江録に沼鍬村
東の方小安川の水を用て本田新田と爲る西の方河
筋^{スガ}くもいて野とあり或は河東とあり心のありを人
人々心をとりやまきやふ子梅津羊在野門殿三郎
右野門といふものを述るめく其方とくまゆふ
あまものやと何くくばくく三郎右野門と申や
吾が祖は則此ふの城主小野寺信^{ノノ}和の家^{ケラ}臣
あて照井宮内少輔某と律て己が之明祖と本城を守り
夫人信三郎の生所て最上大勢と戦ひ柳田某とて
此其子即ちちを虜^{オトロ}あせふ残念あら此ふ
か止りてやし月をまて衰へて今ハ土民とく

さかどふ少しの方お貯りさかどふ田長御壺まの御手
傳ル供へくやと申共梅津殿方よりいびさ原ハ野
処と其方よりあきしとありぬればやがて黒石沼の水を
ひきよめて深井の餘水を以て中島といふをひきよめて家
十軒斗の小村とありぬる中蔵光院の下り土堤を
築き下へ流し三石門堰といふこれありかくて二百
石斗のところをひきよめて安堵の長形をおくしり照井
と御さうありし作田といふぬば苗字を改めて小柳
といふ今の正室といふこれ其外本田の餘水を用て下河
原村といふところと見えたりさうぬれいとく近き
処寶五寺に沼館よりわかれし村といふ本御家名
三十三軒今故郷八卦古六軒今五戸あり村の西出に

小焼石川あり北川の石みあやけくろくろぬばまのふ
そぬかふをわけ石橋といふそを流すやう御物
川を流すて矢部村に至る

神社

○原田正一位稻荷大明神ノ社祭日九月九日沼館
村ノ宮川ノ内政信ノ守護社也

○家員 三十一戸 ○人数 百五十六人
○馬数 十七匹

造山村

里長 久兵衛

造山ツゲヤマより作山ツクリヤマと書りて造山ツゲヤマとよみあり

雄勝印八口内オウセツインハチグチノウチ作り石村イシムラの郡邑ノリノなり家数三十軒

あり今二十七イマニジュシチ人此村往復コノムラニキリヒキリの道ミチあり今石村の南イシムラノミナミあり

神社

稻荷明神社イナリアカミノカミ石持イシモチ端ハタの休やすみの内うちありいり古コ神ミヤ

社シヤのよしをいり祭日三月マツリノヒ中ナカ卯ウ日光院ニツコウイン守護シヤウゴ社シヤ

福フク瑞ズイ虚空藏コウカザウ社シヤ山下ヤマノタより安マダリ置ヰ祭日四月マツリノヒ十三日ミナモトノヒ別當ベツドウ上ウヘ

古跡

傾城塚ケイセイヅカ梨子リコ木キまゐりありよしをいり

蝦夷塚エミシヅカゆゑもつゝ糸イトのきんキンいりく蝦夷エミシの住スミあり

旭アサヒの社シヤよりゆゑをいりありありと近チカき中ナカの事コトなり獅子舞シシマシ

せし若雄子其獅子頭をたてて埋しとて
寒泉馬石沼端に作りいづき清水あり

田畠字

耳取り北畠田村に東里村あり古三河に
ふ書に明大寺の錢堤耳取堆と見えたり

狐塚といふところ多きと云ふはちまみか代に

内子存

神新田壱とて神を祀りて奉りしなり田々又露

窟舎せし小田やより川上のものも上新田とい

ふや高屋敷といふふなるなり

舊寺のありし蹟にその寺は古義の真言宗門を
無量院とて小覺善覺山覺圓圓音音識と

累世ありし此事雄勝郡吉祥寺の古記録に見えたり
そと杉宮の門流といふ今横濱に安樂寺無量壽院
あり其地より遷したるなりなるふつねあり

古館林

小西賢貞日記

平康卿今宿村小西氏四代日久を同賢貞文化五年辰
四月十一日故玉山賢就居士壽八十歳即名久米之即といふ

ふ云ふに北村に山内式部某とて武士位に小野某と
て其館跡と云ふ今木々すの林と云ふもいふと
いふ此邑に酒造家ありと肆店のあるを山の内といふハ
佐々木久と云ふ山内式部が末流と云

常龍山常學寺日光院

開祖常學院某二世真玉院宿音

元禄十二年丁酉
正月十七日入寂三世

宿傳四世宿筭五世宿明六世宿善七日日光院當

里長
七衣町門

東ハ谷地新田西ハ御物川南ハ柏木北ハ造山村有
古ハ二十九軒今十四戸高四十石人六十一人馬四足
あり之村之しとてしをいふ

神社

○稻荷社 村の東にあり 蝦夷塚とも云ふなり 屋敷^{フセ}あり 余日
二月初午の日 深井村の自教院守護社あり

田白田ノ字地

澤田 中島 寺田 葛牧 大新田 大布 氣 谷地
 俎倉 村より東南一里行くと俎倉ノ寒水と云大浦
 水より此名泉木下^{ミナキ}下^{シタ}と植田境に存り此水を千所
 の稻田にまろせて佃と

○郷山と御物川向に存

其山の麓に菖蒲が沢とよ深井南形東里今宿
沼殿の秣新山と云

○家員十四戸

○人数七十人

○馬数四匹

○深井村

里長假役

亦在御門
清兵衛

郡邑記云西雄勝郡大澤山と云

中島舟場と枝郷ありしが洪水の時本郷より今

つり住むより此村を深江と云ふとあるや何れ

記録に見えたりとあるを三代実録三十五卷

に云元慶三年正月十三日癸卯云是日勅符出羽

國史授出羽國俘囚外正六位下深江三門外從五位

下外正八位下大辟法作正月九並外從下賞軍功也

云々と見えたりと云深江三門や此をいふ住たむかし

おく仙北郡六師の近邊と藤本と云ふも深井あり

れと云ふならありし事ある陸奥國と石川駿

河と云城主と仕へりし浮浪人慶長の始の小野寺

遠江守義道は仕へず、浮浪の身となり寛永のころ梅津
家へ仕へり此石川氏此より新墾せしといふに、
古井ありしはあかぬをて田地の字とし水田よりの地りし
る人あらず未だ其の住む村の名を深井といふといふ
此邑より高橋姓の多しといふ、杉、宮、七、騎、と云々
武士といふ、其七騎の内高橋五郎保本が最後
守人といふ、此村に住居するもの志々高橋の家とい
ふといふ、此邑より四石斛の稲田を新り、今三
百四斛の稲を新りといふ

神社

八幡宮末社 稲荷社 秋葉社 本社 祭日八月十五日
社内なる大木あり修験者自教院が守護社に

鳥羽野稲荷明神社 祭日九月九日 新墾成就
といふ此社を寛政の頃ある文廟に奉るといふ喜寧院
の守護社に

虚空藏菩薩社 村にあり 祭日六月十三日 別當
寺喜寧院

下深井 稲荷明神社 此村に今廃村て跡あり、
やうの祠あり畑中にあせり、いふといふ

田畠ノ字地古名

黒石沼より縦四五町斗横五十間斗の大沼村の東
に中りたり此沼の事と今宿のくといふ記に下大巻
沼の南にあり東勝沼の北にあり中島田沼北にありまが
の川ちりりと大阿 御物川とあり今古川堰あり

○家員 八十三戸
○馬数 二十九足

○人数 三百九十四人

○道地村

里長

善左衛門

○此道地とふ村ふと最と多とありて、
伽二童子の義ルて童子といひまゝ堂地また道地
おと作ありたり、東と常野村西と邸物川向と大
澤邑東南と西野お北と澤井村南形村の中と
家員古と四十八軒今と三十五戸あり

○神社

○神明宮 狐崎とつるふと、
みやとらと柏木村ノ島藏院ノ守護社あり

○稻荷神明ノ社村の北端と南と奉る祭日二月初午
の日あり守護者ありあり

○田畠字地

狐崎 古川向 荻分堀 大澤向

○ 於保比那多氏の由来

○ 大日向氏と梅津家の給人ありて大日向久左衛門大日向庄左衛門といふ北西家の祖と北村の水田を新墾いさありし家らありといふ

○ 家員 三十五戸

○ 人数 百四十八人

○ 馬 数 十五足

○ 柏木村

里長

久三郎

○ 柏と櫛と作カキあり、御綱柏長女柏櫛柏の品多

いづれ柏木の多かりしありしや柏木と姓ある

りまた月卿雲字をあらうりや左衛門督をよみて歌

るより柏木子葉字の神とあり同左とあり津輕

より柏木村ありそハ花山院四位少将忠長師松前福山

いさすし給ふ飯依近津輕より黒石より里よりありし

ゆへ源氏踊の唱歌を作りより源氏おとそ名付給ひしと

よハ夕顔柳柏木と今と其村ルとありなりたるありし

より北平度原の柏木村と東ハ谷地新田村西ハ御物川

南ハ常野村北ハ南形村中よりありハ家数四十二軒

今と二十二戸杖邑三ツ屋古十一軒今九戸あり

神社

○千手観音社 元禄の頃裔いたるより村の東におき祭日三月十七日

○神明宮 稻荷明神 おおみやどろにあり
別當萬藏院

古蹟

○北邑あり並て榊原ふ柏野とらひ地におく
常福院といふ山伏住し金糸の跡あり村に元和を始と
いふ

○家員 三十一戸

○人員 百五十七人

○馬 十三疋

東里村

里長 市左衛門

○北村雪造山何と東の樽見内あり南に木下
砂子田その村を四の近隣とせり紋印あり

○新屋村 家数 今三軒 北澤村 今二軒 本郷 一里南に

在る村に極内 今八軒 本郷の南にあり 針貫田 今七軒

あり 今一軒 地子存 東規 今十四軒 本郷より四五

町西に在 廻館 今十五軒 水里 今二十軒 この水里に今

東里より水里と国所別 今一軒 まみ 今一軒 東

里の字あり 今一軒 遠 今一軒 字を忌ひ今志ら陽極

み 今一軒 東里といへり 今一軒 あぬめ 東里に在る

あり 浪速八景の内 今一軒 遠里 落雁 近 今一軒 あり

に 今一軒 あり 今一軒 小野におつる 今一軒 あり

こよりなつり

神社

○正観音堂 祭日三月十八日七月十八日大杉二本
生いなり此観世音菩薩の古堂跡といふ三本柳といふ
ありむり三本の柳といふ根のまゐり一株柳といふ今
はうつほ木とあれといふ此観世音運慶の作といふ

○稻荷明神社 祭日九月九日佐藤利之助がつり
ある御神く

○辨財天祠 東槻ノ村にあり祭日四月三日小池
此池つねに水漲て五月雨よりさあさば六月に涸る
といふ

○稻荷社 巡り鍛冶の村にあり祭日四月十九日

八幡宮 柄内ノ村にありまつり祭日四月十五
神明社 おおかりあい村にあり祭日四月十六日

名處舊地

耳取ノ谷地 造山田村にありおありその義造山
といふことありとも國の耳ありといふ名あり

志戸ノ池といふあり山本部は志戸橋あり此志戸の池を
雨とすれはかきえうしつとふあり此師の意の諺
あり石橋古里志戸の池といふいふありゆゑある事や
石奴子廻り鍛冶の村中よりさる此田と鍛冶が袋

ついでなり

西膝の胡桃 此北ノ沢の渡部伊太戸門が家近く
生きたり此鬼胡桃ある年ハ三斗あり此くるも南

かしち枝渡部伴在厨門の其の室を耶北枝ふ
 うくうさそやうさ渡部喜在厨門の後採と
 いせせのふしうたのーあり

○古石十郷之

永慶軍記の高寺の住小野寺道親西馬音内式
 部少輔の足田郡山三皇子十郷云々見えたり

○真香田カクの水福山忠應院

開山宥月法印元禄九年七月二日入寂二世宥錦
 三世宥中四世宥明五世宥全六世宥深七世宥林八
 世宥住宥了といふ家藏寶物運慶の作、正觀
 音寛文三年三月十三日土中より掘り出し自然石釋
 迦如来此自然石佛と云の圖カクのふつふと云ふなり

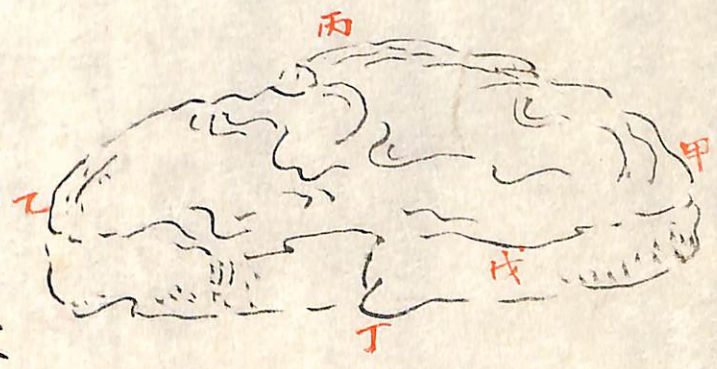
オツカラナレホトケノカタ
 自然石佛之回

甲ヨリ乙ノ直リ高サ六寸許リ
 神形高サ二寸半リ
 石ノ重サ百四十二匁零



此石像の南祖法印帝月の夢に此底土より出てくたり今と
 世にあらあやむ衆生よりやくし国を治むと妙なる師声耳
 子身にて鶏の鳴きたる帝月おどろき其ときよりいづれ
 寛文三年癸卯三月十三日真香山といふところより掘り出
 られたるを見れば真黒なる石ニツけてあり清水にてこれを
 あらふればおどろき夢のみならずこのとき雪山の釋迦年
 厄佛の真形のみならずその鮮明なる人の工み周りたる
 うらやままた其石の堅実なる金鉄の如しおどろき世にた
 らぬ品はあらあやむにこそ水をたさうべし佛の尊厳
 といふはあやむ石は木化石の如くあり紋ありその堅実
 こといふべし城の阿仁の小勝の如く陰石の如しおどろき神
 像より往古の尊人の形を木より彫りたる地を掘れば水
 はひちて石を掘んがごとくおどろき今ある小勝の花文
 石を硯にきくといふ堅実金鉄の如くあらと見えこれ
 をいふおどろき

聖座石 厚六七分



甲乙ノ間三寸四五分
 丙丁ノ直リ寸五分
 重二百一十斤

○落葉家藏くたり

さきよりいふ北の海の渡部伊左衛門が家空
 海真作のたまたま佛ありおどろきと見えそのよりたまたま
 いふとせとあらすといふみなたまたま拝み奉るにあは
 おほひのおたり

○同家玉の玉のうたり

上祖より傳りたるやいと大なるあかりちの大なる
 玉あり此玉のまじつ方より水ありその浪のうきなりと
 ゆめありまたその中よりいふ細く火の玉えあがり
 ぬおのたま下へ返りしときあやむと見えたがひあや
 明玉ありし人かめいともいふつゝあるあまた
 あやむとあやむ語る

○家員 六十九戸 ○人数 三百八人
○馬数 四十六足

○西石塚村 里長 三郎兵衛

○家員古三十四軒今三十二戸あり枝師あり下
郷村古五軒今二戸あり此邑慶長ノ末元和の始
よりひたりる村あり

○神社

○千手観音ノ社村の南に在り祭日四月十七日薄
井村の寶壽院に守護社と

○田畠ノ字地

南田 幸ノ神神座ありや大暖ナヒナヒ 浮田 上ノ中野 下
野トコもトコ通トコ服トコとありり家五戸あり高口
家一戸あり処に

○古蹟

元和のあり所ありこゝに高橋從右衛門と此邑肇造
民家のあゝの墓誌石くあり正保三年ノ菊地彦
十郎の碑あり

○菊地久右衛門が家の鞍と鎧とを藏ふ結鞍の下
ゆゑ鞍橋を破れても大なる鞍に鎧は木鎧を
鳩胸よりして鎧のうき具うちまりたるもの之係訓葉
はあゝのくたう武藏鎧いせり読みの歌より新
猿樂記にも見ゆ木鎧を今世は五六あるいふ物此
遺制也といふ武藏をいふ昔高麗人多く此國に
置んし事あればさういふと見えうさうのもの
や何れ鞍鎧とも古代のもの

○朝日の松夕日の松と二本の古木ありし旭の松村の

北の中り菊地久右衛門が境内に生ひたり此松枝葉
旭影さす方のもむきこゝにかゝるさうなる小枝一本
あらざるあるあやうめづらしき松之夕陽の松もこ
遠くふもあはれすこゝに松葉末みちやふ麻葉なり
村の人集り旭の松を伐つもの用むとふ此事いふ
はこととあはれ夜うゝ女の声うゝと啼哭あり人
あやうゝ狐うゝあわさうゝあゝあゝと目あはれ松と
伐つ女の夜にうゝうゝとつゝ松の木端をみま
とりたをいなりあやうゝとふをうゝあゝと夕日
の松のうゝあゝとふで枯れたりさうやういふこと
はあはれ神のたうりあるあゝとふ此水の上の蛭野
とつた地は夕陽の松の枯木枝あがら埋まらるゝて

後旭の松の代りといふことあり。松をうゑばいつとあき枝葉
 朝日影より一向にまをいふなり。一とせ二とせと種を
 おみ松植ぬぬいふことあり。やうて神官験者をも
 のいふりかぢしより。松をうゑば松を植ぬと旭影に
 枝さし靡るを三とせをいふ。松をうゑばつるあやう
 ことあり人の松をうゑんといふ。うゑる石塚といふ
 あり。御あらばさる塚松あり。あり。

家員三十一戸 人数百五十四人

馬数十六匹

旭の松



夕日の松



